

平成 29 年第 2 回市議会定例会 一般質問通告（要旨）

平成 29 年 6 月 15 日（木）

1 大井 俊彦 議員

1	件名 自主防災組織の活性化について	
	(1)	自主防災組織の現状と課題
	(2)	市の支援体制
	(3)	消防団、消防署との連携
2	件名 障害者差別解消法について	
	(1)	市としての取り組み状況
	(2)	今後の方針と課題

2 中野 康子 議員

1	件名 お茶の現状と課題	
	(1)	リーフ茶の消費は減少傾向にあるが、抹茶や粉茶を使った加工品やペットボトル飲料に対する需要は強く、新たな商品開発の動きが拡大している。市が取り組むことが出来る支援策はなにか。
	(2)	「地理的表示保護制度への対応」及び「お茶輸出促進への対応」について 27 年 9 月議会で提案した。その後の取り組み状況と課題はなにか。
	(3)	牧之原市茶業振興計画の 4 本の施策 (1) 魅力ある経営体の育成、(2) 静岡牧之原茶のブランド化と販路の開拓、(3) 生産性の高い基盤づくり、(4) 茶文化の継承と創造。それぞれの成果と進捗状況及び今後の取り組みについて。
2	件名 統計教育への取り組み	
	(1)	学習指導要綱に基づく統計教育の現状と課題はなにか。
	(2)	「静岡県統計グラフコンクール」への参加状況

3 名波 喜久 議員

1	件名	相良公民館存続の早期対応について
	(1)	拠点公民館としての対応をどう考えているのか
	(2)	現在の検討・審議の進捗状況と今後の対応は
2	件名	市の花「紫陽花」普及への考え方は
	(1)	市の花「紫陽花」の普及による植栽・景観計画はあるのか
	(2)	外来種「大金鶏菊」撲滅への対策はどうしているのか

4 植田 博巳 議員

1	件名	公共施設マネジメント計画の進捗と進め方について
	(1)	「牧之原市公共施設マネジメント基本計画」において、庁舎機能の再配置計画、図書館設置に係る計画策定、小中学校の在り方検討など各施設の検討状況を伺う。
	(2)	公共施設マネジメントを実施するには、減らしたり、壊したり、無くしたり、我慢してもらい場面が増え、今後は痛みが伴う。市民と対話を重ね結論を導くプロセスは大切であるが、ある施設を壊して、統合すると、一部の市民は遠くなったり利便性が低下することはゆがめない。痛みを伴うマネジメントを実施する上で、市民との対話プロセスをどのように考えて進めていくのか伺う。
(3)	牧之原市公共施設マネジメントは、公有施設の削減だけ着目した計画となっているが、一般的に言われているファシリティマネジメント、公有財産や普通財産すべての財産を対象に「保全管理から経営管理」と民間経営の手法を取り入れた不動産経営概念を導入することで、未利用地、未利用スペースを計画的に民間へ貸付、譲与、交換することで費用の削減と収入増が考えられるが市の考えを伺う。	

5 藤野 守 議員

1	件名	「公共交通の充実」について
	(1)	「地域公共交通網形成計画」の目標とする公共交通、具体的施策は何か。
	(2)	牧之原新交通検討会議ではバスの利用を進めるとしている。どのような施策を考えているか。
(3)	平成 29 年度（2017 年度）から試験運転が予定されている「デマンド乗合タクシー」について	

6 大石 和央 議員

	件名	行政のアウトソーシングと非正規職員の任用について
1	(1)	これまでの全部・一部委託の評価・成果及び今後の展開・目標について伺う。
	(2)	委託料は適正か、どのように算出しているのか。また受注者の雇用・賃金の状況把握はされているのか。
	(3)	どのような任用形態か任用根拠と分類等についてお聞きする。また勤務・給与等の実態には違法・不当性はないか。

7 平口 朋彦 議員

	件名	図書館設置に向けた進捗状況を伺う
1	(1)	「図書館設置に係る計画策定」は平成 28 年度～平成 29 年度となっており、策定期間の後半を迎え現在の進捗状況をお聴きする。また市として計画策定にあたり、協議を能動的に行う予定、または行った実績は。
	(2)	当面の間、両庁舎の統合はない中で庁舎機能の再配置と図書館設置に関する諸々の検討案とは切り離されて検証されていると考えてよいのか。それとも複数案の可能性の 1 つとして検討されているのか。
	(3)	規模に対する目標設定値がなければ既存の施設を再配置し空きスペースを確保しようがないと思われるが、もし仮に「再配置後にできたスペースにあわせて」という考えでいくと結果矮小化する恐れがあるのではないか。この点についての見解を伺う。
	件名	市の雇用・就労環境の構築は
2	(1)	多種多様な職業選択肢を提示する方策についての取り組みは起業支援のみなのか。地域資源の発掘と研鑽による地域産業づくりとは具体的にどういったものを想定しているのか。また地域産業づくりに関して、計画期間 8 年全体での予算措置はどの程度を見込んでいるのか。
	(2)	若者の就労支援への取り組みは成果を上げているのか。ニート問題など行政が NPO 団体と協力し負わなければならない役割も多いと考える。また労働厚生省のジョブカード制度を利用した有期実習型訓練を受け入れる企業は牧之原市にどれくらいあるか。
	(3)	「5 歳階級別の人口社会減」人口コーホート分析図では、30～34 歳の転出超過が顕著である。これについてはさまざまな要因が考えられるが、こと仕事という面からみるとどういった原因が考えられるか。また対応は。